

キタ
再発見の会
×
うめらく未来
ミッション



公益財団法人都市活力研究所と一般社団法人うめらくは、共同でトークイベント「キタ再発見の会」「うめらく未来ミッション」を開催します。「キタ再発見の会」は、キタエリアで多くの時間を過ごされる方に、是非キタエリアの豊富な魅力を知っていただき、もっと好きになっていただくきっかけとして開催しています。「うめらく未来ミッション」は実際に地域で活動している方と、地域で活動をしたい人をつなぐ交流の場として定期開催しています。未来にミッション(使命)を感じて活動する方々がつながり合うことにより、地域活性化仲間となり、実践のきっかけとなりますよう、皆様に気軽に立ち寄っていただき、夜のひとときにゲストトークや意見交換を愉しんでいただければ幸いです。皆様のご参加をお待ちしております。

第9回キタ再発見の会×うめらく未来ミッション(vol.17)

□テーマ 『地域の活動の場「廃校活用でまちをつくる北天満』』
□コーディネーター：一般社団法人うめらく 代表 山田摩利子
□ゲストスピーカー：長本 幸三 様、奥 一朗 様(北天満地域より)
□日時 2019年2月1日(金) 18:30-20:30
□会場 都市活力研究所セミナールーム

前半では、北天満地域で地域活動をされているお二人をゲストスピーカーとして「廃校活用でまちをつくる北天満」についてトークセッションを行います。

後半では、廃校となった施設の有効活用に積極的に取り組んでいる全国の事例などを紹介しながら、北天満地域の新たなまちの価値をつくる施設として生まれ変わる用途なども探っていききたいと思います。

■第1部 地域の活動の場「廃校活用でまちをつくる北天満」

(山田氏)今日は「廃校活用でまちをつくる北天満」というテーマで私、山田のコーディネートで進めさせていただきます。北天満地域は天神橋筋六丁目の駅の南西側のエリアで、行岡病院を過ぎて西の方は済美地域と接しています。南は北区役所、扇町公園のところまでがエリアに入っています。天五中崎商店街の東側もこのエリアに含まれています。

北天満地域の活動団体は全部で35もあります。8つの振興町会のほか女性会や食事サービスの委員会、社会福祉協議会、民生委員協議会、青少年指導員連絡協議会、保護会といったどの地域にもあるものもあれば、先ほどご紹介した商店街の3つの商店会、浪花町商店街振興組合と黒崎の西・東商店会というものと、北天満小学校跡地利用計画委員会、北天満小学校芝生倶楽部、北天満掃除倶楽部というちょっと他の地域にはない活動団体も含まれています。

今日の題材となっている小学校のことについては、2部でじっくり触れていきたいと思います。まずは、その地域で行われている催しや地域活動をちょっとご紹介しします。天神橋筋六丁目の駅から約1分の距離にあった北天満小学校は、2004年に閉校しました。その時に中崎町にある済美小学校という小学校と一緒に、現在は扇町小学校ということで、先ほど控室でもお聞きしていたのですが、この扇町小学校が今では増床しないといけなくらいのマンモス校になっているとお聞きしましたがそのあたりを教えてくださいませんか？

(奥氏)扇町小学校は今、7連合町会のエリアから子どもたちが通っています。

(山田氏)中之島、堂島、曾根崎、北野、済美、北天満、梅田東(連合町会)の広域エリアが一つになった小学校の今の現状について教えてください。

(奥氏)マンション増加や都心回帰にともない、児童数が増えまして、その当時建てた扇町小学校のキャパシティでは賅いきれなくなりましたので、今増築をするということになっております。

(山田氏)今の時点ですでに課題が出てきているような、そんな感じなんですかね。ちなみに今小学校跡地の写真では、グラウンドがグリーンの芝生になっていますけれども、閉校前のグラウンドは芝生ではなかったんですか？

(長本氏)もちろん小学校時代は土のグラウンドでした。閉校になって2年目の時に芝生を植えるNPOの方が来られて、芝生を植えることになりました。芝生の上というのはやっぱり大人も嬉しいけれども子ども達もやっぱり嬉しいみたいですね。ですから芝生を植えて下さっているNPOの方にはもう感謝の気持ちでいっぱいです。

(山田氏)北天満小学校跡地を活用した年間イベントというのは2月、4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月に実施されているということで、ほぼ毎月されていますね。

(長本氏)この写真は4月の花見の会です。大阪市政100周年で植えた桜の木があって、本当にどこへ出しても恥ずかしくないくらいすごい良い枝ぶりです。この写真は8月の第一土日の北天満サマーフェスティバル

ルというイベントです。盆踊りとサマーフェスティバルはどう違うかと言いますと、もちろん盆踊りがメインになるわけですが北天満地域では色々な演奏やベリーダンス、フラダンス、サンバがあるので、北天満に来ていただくと盆踊りを含めて世界三大踊りがみれますよというのがキャッチフレーズになります。

(山田氏)誰でも参加できるのですか？

(長本氏)はい、もちろん誰でも入れます。5月の歩こう会は小さい子どもから高齢者まで参加できるということで、ショートコースと普通のコースを用意しています。大川沿いを歩いて毛馬の閘門まで行って帰ってきて、芝生の上で皆さんと一ベキューをしようという企画でやっています。

(山田氏)次9月は大人気の「星空野外シアター」ですね。

(長本氏)そうですね、本当に大人気です。4メートル×8メートルの大きなスクリーンを布団のシートを4枚ぐらい繋ぎ合わせてつくりました。本当に手作りです。

(山田氏)12月はちょっと変わった防災訓練ですか。

(長本氏)防災訓練らしくないのですが、防災訓練とお餅つきというテーマでやらせてもらっています。何かかといいますが、防災訓練だけでは人が来ないので工夫しています。防災訓練に来ていただいた方にはお餅つきにも参加できますよっていったら人がドッと来ます。

(山田氏)次が2月になりますけれども。

(長本氏)2月は大根炊きということで、いつもは大根炊きと風揚げというテーマでやっていたのですが、風揚げはちょっと危険なので、去年から紙飛行機を飛ばしましょうという企画に変更しました。併せてどんど焼きをしています。この時にスタッフがお芋を焼いたらそれもみんなタダでもらえるので行列ができました。

(山田氏)今沢山のイベントのご紹介がありましたけれども、これらのイベント運営は何人くらいでされているのですか？

(長本氏)やっぱり一番人がたくさんいるのがサマーフェスティバルですね。先ほど30個ほど団体がありましたけれども、ほとんどの人に出てもらいます。

(山田氏)ちなみにPTAとかも？

(長本氏)以前、北天満小学校がある時には北天満PTAというのがあったのですが、7連合になりましたから北天満とPTAというのが繋がりが薄くなってしまいました。今地域の一つの課題としては次の担い手がいらないということです。

(山田氏)これらのイベントは主にどういう目的で行われていますか？

(長本氏)今まではやっぱり地域の交流、色々な人が交流できたらいいなというような考え方でずっとやってきました。

(山田氏)北天満小学校の跡地が色々活用されているなという印象を受けました。

■第2部 全国の廃校利用状況について

(山田氏)この後ですね、第二部ということで全国の廃校の活用例をご紹介しながらお話を進めていきたいと思います。全国で役目を終えた学校は何校あると思いますか？文部科学省のホームページによると、平成24年までで6834校ということでした。そのうち活用されてない廃校は1259校で、活用されない理由は「利用計画がない」「地域等からの要望がない」「活用方法がわからない」ということでした。一方全国で廃校を活用した事例というのはどういう使い方ができるのかということで、廃校レストラン(秋津野ガルテン、のじまスコラ)、宿泊施設(子どもたちが楽しく防災を学ぶ KIBOTCHA)、アート(東京おもちゃ美術館、京都の国際マンガミュージアム)、複合施設(世田谷のモノづくり学校)、コワーキングや事務所(千葉県勝浦市の清海学園、吉本興業、工場(長野県飯綱の醸造所)などがあります。

先ほどご紹介しました北天満小学校の跡地もBACK TO 廃校プロジェクトの一つとして去年廃校夏祭りというイベントをMeetsさんがされていたということで、この時の様子をお伺いしたいのですけれども。

これはどこからお話があったのでしょうか？

(長本氏)これはいきなり会長のところに電話が掛かってきまして、廃校のイベントを Meets がやってるんだと。文科省の方から予算が出ていて、北区長と教育委員長には既に了解をとっているのやらせてほしいということでした。北天満地域としても北天満小学校を使っていたかどうかというものはものすごく嬉しいことなので、是非どうぞということを使っていたできました。当日はたくさんの方が来られてびっくりしました。

(山田氏)これは地域の方々は参加されていましたか？

(長本氏)カレーを食べに来られた方のなかには、ほとんど地域の方は来られていなかったですね。地域外の若い方がほとんどでした。

(山田氏)そうですか。ちなみにこれはその後継続的に開催するとかそういうようなお話しはあるのですか？

(長本氏)Meets さんからそんな話は特に聞いてなかったですね。

(山田氏)なるほど。これは地域の方には何かメリットのようなものはあったのですか？

(長本氏)私の個人的な感想では、地域に対するメリットというのはほとんどなかったのかなと思います。

(山田氏)北天満小学校の跡地にはインフラが整っているのでイベントをやりやすいですね。

(長本氏)教育委員会の許可を得るためにはやっぱり制約があります。北天満地域としては教育委員会に借用しているかたちです。

(山田氏)地域が使うということであれば特にいちいち許可はいらないけれども、こういう大きなイベント事で地域外から入ってくる時には教育委員会とか区役所を通して、趣旨が合うものでなければ難しいということですね。Meets 以外でイベントをされたことは？

(奥氏・長本氏)ないです。

(山田氏)わかりました。廃校を運営していく中でやはりお金がどうなっているのかということが一番気になってきます。財源比率ということで調べてみると、やっぱり公的資金等というのが 86%です。やはり行政と民間が協力し合う維持管理という形でないとなかなか廃校になったところの活用というのはお金も掛かるし結構厳しいのかなという、そういう様子が窺がえました。

■意見交換

(山田氏)今まで全国で廃校の活用事例をご紹介させていただきましたが、ここからは北天満小学校についてのミッションを皆さんと一っしょに考えていきたいと思います。改めて北天満小学校の跡地は、天神橋筋六丁目駅から徒歩 1 分という場所にあります。老朽化のため校舎自体は使用不可となっています。3 つ目に数年後売却予定の話も上がっているとのことで現状は行政からの資金調達は難しそうです。(google map の)上から見てもらったら緑になっているところが北天満小学校跡地です。周辺地域を見ても周りを見ても緑になっているところがほとんどないエリアですね。

(会場)北天満には関テレがあります。地域とメディアとが協力し合っている街の取り組みといったものはありますか？茶屋町には MBS があって結構街づくりにも参加しているようです。北天満小学校の跡地は関テレさん側なので、地元の発信力のある企業と組んであの場所を考えようとするのはとても自然なストーリーと思います。

(会場)これ以上公共用地を売った後がマンションになるのは学校の方もバンクするということもあって、これ以上マンションが建つのはきたら抑えたいということも行政としてはあるんでしょうか。

(会場)大阪市の大きな方針としては、未利用地があれば基本的に全部売却という方針になっています。しかし、この北天満小学校の跡地は、天神橋筋六丁目駅の近辺 300 メートル圏内にある唯一の一時避難所に指定されていて、地震などの災害が起きると駅から締め出された人々に、この北天満小学校の跡地の方に避難してくださいと駅の方が誘導する唯一の一時避難場所なんです。

(山田氏)北天満小学校の跡地活用を促進することで、地域にはなくてはならない場所であることを示していくことも大切なのかもしれませんね。

(会場)はい、大切だと思います。もし民間にお願いできたら収益性をそこで上げていただくという方法はあるのですけれども、そこにたどり着くまでには「北天満小学校の跡地というものがあるって、活用されてるね」という色んな声をどんどん発信していく方がきっと前に進んでいくのではないかなという気がします。

(山田氏)活用して残さなければならぬ価値があるということとみんなに知ってもらう必要ということですね。あの建物は建って何年ぐらいに

なりますか？

(奥氏)旧校舎の方は防空壕があるくらいですから 100 年近いです。新校舎(長細い方)はどれくらいでしょう。それでもやっぱり 60 年以上はもう超えているかなとは思いますが。

(山田氏)耐震の数値はオープンにされていないのですか？

(会場)オープンにはされていないです。

(山田氏)地域の方々がここで年間通してこれだけ活動されていますが、もしここがなくなったら地域はどんな感じになるのでしょうか。

(長本氏)北天満小学校あつての北天満地域。全ての行事が北天満小学校絡みでやっていますから、あそこがなくなったら 8 町会がバラバラになって、各町会だけで動いてねということになってくると思います。

(会場)大阪市では廃校などの公物を民間に委託して使ってもらっているという事例が今までにありますか？

(会場)基本的にはないと思います。先ず売却という基準が前提としてあって、今若干プロポーザル入札というのが始まっています。要は普通に売るとマンション、ホテルが建つところを地域の用途に見合ったものを指定した上で売却するという方向まで来てるのですが、その建物を貸してリノベーションして使ってくださいというパターンは現状では生まれていないんです。

(会場)大阪というのは元々知恵を出すのが上手い土地柄だと思うんですよ。学校ではまだできていないけれども良い建物を生かすということでは、例えば大阪城の中にある元市立博物館が今ミライザになっています。

(山田氏)そういう意味では北天満小学校の跡地というのは、立地の面や、天然芝を敷いていることなどを活かせばもしかしたら廃校活用のモデルケースとして突破口を見つけられるようなことができる場所かもしれないですね。あと、地元の飲食店や商店のコラボでの取り組みとかはいままでありませんでしたか？

(長本氏) Meets の人が「タダやから来てね」「テーブルもテントもみんなこちらで用意するから来てね」と言っただけでも周辺地域のカレー屋さんあんまり乗り気でなかったと聞いています。北天満校区からは一軒も出ていなかったですね。

(奥氏)最初に言うておかなければいけないのは、先ほどもお話しがありましたように、管理しているのは教育委員会なんですよね。だからそこで商売ができないんですよね。

(山田氏)色々お話を伺い、北天満小学校跡地にある資源を活かして残さなければならぬと思う価値を高めていく利用方法の一つとしては、アウトドアを楽しんだり緑を上手く使ったりすることが考えられるのではないのでしょうか。アウトドアは言い換えれば子どもから大人まで防災を楽しく学ぶことができるアイテムであり、先日「廃校活用型防災アウトドア学校」をお二人の会長さんにご提案させていただきました。防災アウトドア学校の目的としては、東日本大震災の時に助かった人の 98% は自助・共助であったといわれている通り、いざという時に必要な自助・共助を学ぶ場として都会の中にこういうところがあるということは私たち子どもを育てる親としてもありがたいと思う人も少なからずいると思います。教育委員会との調整や、利用制限もあると思いますが、できるところから始めていって、動いてみれば何かまた次の課題にぶつかればまた修正するといった感じでの防災を軸にしたコミュニティをまずはつくってみたらどうか。北天満小学校の廃校の利活用や防災に興味がある方は是非ご参加いただければ嬉しいなと思います。

